

令和6年度 調布市立第三中学校 学校評価報告書（学校長 宇田川 裕美）

学校の教育目標		
1	自ら学び考え、向上しようとする人（重点目標）	2 自他を思いやる、心豊かな人 3 心身を鍛え、たくましく生きる人
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
＜目指す学校像＞ 1 学ぶ楽しさを実感し、将来の自己実現に向けて互いに高め合える学校 2 生徒一人一人の個性を尊重し、高い人権感覚をもち、自他ともに大切にできる学校 3 保護者・地域とともに子どもを育て、困難や障害を克服する力を育める学校		

調布市立学校における共通した領域 ＜短期的な経営目標＞						
	① 豊かな心(徳)		② 確かな学力(知)		③ 健やかな体(体)	
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①二者及び三者面談およびＳＣとの 1 年生全員面談の実施。毎月の心のアンケートの実施。いのちの授業の実施。	A	①協働的な学びを充実させた「主体的・対話的で深い学び」の実現。年3回の授業研究の実施。	A	①達成感や充実感のある学校行事(運動会や合唱コンクールなど)の実施や部活動による体力の向上。	A
	②Ｑ－Ｕを活用したいじめや不登校を生まない集団作りに向けた学級経営。	A	②ＩＣＴ機器を活用した工夫した授業の実施。	A	②安全意識や危機回避への意識向上に向けた訓練や研修等の計画的な実施。	A
	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価
	①学校評価アンケートの関連項目において肯定的評価90%以上。	A	①授業アンケートの関連項目において肯定的評価85%以上。	A	①学校評価アンケートの関連項目において肯定的評価90%以上。	A
	②学校評価アンケートの関連項目において肯定的評価90%以上。	A	②授業アンケートの関連項目において肯定的評価70%以上。	B	②学校評価アンケートの関連項目において肯定的評価80%以上。	A
学校関係者評価	・学校に行くのが楽しいという評価が生徒、保護者ともに評価が高いことは、安心して学校へ行ける環境が整っている成果だと思う。 ・心のアンケートの毎月の実施がよいと思う。不登校の生徒がどのようにアンケートに答えているのかも気になることである。 ・Ｑ－Ｕ の活用によって、学校・教員の立場にとどまらない視点で問題を把握し対応の可能性を開いていることは評価に値すると考える。その結果について保護者にも開示・共有できる部分があれば、積極的に取り組んでいただきたい。		・様々な教科で自分を動画にとって振り返る活動などＩＣＴ機器を活用できていることはよい。特に、自分の学習状況を客観視するためのＩＣＴ活用がよい。 ・ＩＣＴ機器などは専門的な知見のある地域の方の力も手助けになると思う。 ・ＩＣＴの活用は、日常の学校業務、例えば欠席の連絡をはじめ家庭や保護者との連携を密にする部分などで大いに発揮できる。教育界では未だにファックスが使われていることが新聞などでも伝えられているが、セキュリティの問題をクリアしたうえで、世間並みに追いつくことが必要ではないか。それによって生まれた余裕が、授業等でのＩＣＴ活用のために活かされることを期待する。		・生徒も保護者も評価が高く学校生活が充実していることが分かってよかった。 ・生徒アンケートで「生徒会活動に積極的に取り組んでいる」という質問があるが、地域活動ボランティアに来てくれている生徒が多くいることから、生徒会活動に限らず評価できるとよい。 ・運動会や合唱コンクールは積極的に取り組み、先生方の支援も適切で、成果が出ていると思う。 ・学校行事や部活の充実は、これまでもこれからも、三中の特色として受け継いでいっていただきたい。	
学校の特色を生かした領域 ＜短期的な経営目標＞						
	④ 特別活動の充実		⑤ 組織的な教育相談		⑥ キャリア教育の推進	
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①生徒会朝礼や部活動オリエンテーションなどの生徒の自主的な活動の実施。	A	①特別支援教育及び教育相談に関する研修の実施による発達支持的生徒指導の充実。	A	①エナジードを活用し3年間を見通したキャリア教育の実施。	B
	②自分の考えの構築や探究心の育成に向けた朝読書の実施。	A	②教育相談的な指導の組織的な対応の推進。定期的な校内委員会の実施。	A	②体験的な活動を重視するとともに、小中連携を踏まえたキャリアパスポートの活用。	B
	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価
	①学校評価アンケートの関連項目において肯定的回答80%以上。	B	①学校評価アンケートの関連項目において肯定的評価80%以上。	A	①学校評価アンケートの関連項目において肯定的評価80%以上。	B
	②学校評価アンケートの関連項目において肯定的回答70%以上。	A	②学校評価アンケートの関連項目において肯定的評価80%以上。	A	②学校評価アンケートの関連項目において、肯定的評価70%以上。	B
学校関係者評価	・生徒会でSNSのアンケートを取ってルールを検討しているのは素晴らしい。 ・文章を読む力はすべての科目の学力向上に大切であると思う。朝読書の実施の効果が出るまでに時間がかかると思うが、続けていただきたい。 ・教育的活動が活発に行われているだけでなく、それが行われている学校を「楽しい」と感じる傾向が、親の目から見て子どもの実感以上に表れているところが（生徒・保護者アンケートより）素晴らしいと感じる。 ・生徒会を中心に地域へのボランティア活動に中学生の力を積極的に発揮してもらいたい。		・生徒は、先生に悩み相談ができるのが89%と高い。安心して学校生活を送れていると思われる。保護者が71%と低いのは保護者が気軽に相談できる体制が必要なのかもしれない。 ・充実した活動が継続されていることを評価する。特別支援学級がある学校として、担当の先生方の知見や見識を益々活かす方向で取り組んでいただきたい。 ・特別支援教育コーディネーターを各学年に置くことで目が届くようになり、効果が表れていることから、引き続き効果的な対応をよろしく願います。		・体験的な活動や具体的な話を聞くことは大切だと思う。地域の方々には様々な経験をしている人が多いことから、その方たちの話を聞く活動があるとよい。 ・「エナジード」のような外部教材の活用は難しいところもあると思うが、様々なところで開発されている教育的な資源を学校に導入していくことは、今後広がっていくと考えられるので、吟味しながらも、積極的に進めていっていただきたい。キャリアパスポートについては、小中高と継続して活用されるものであるために、学校種間での連携と指導の連続性が重要である。それと同時に、人生の節目節目で、取り組むべき課題は変わっていくものでもあるので、中学生なりの体験と学習に基づき、振り返っての自己の把握と将来に対する見通しが変わっていくことも大いにありえるのではないかと考える。三中なりの活用の方法を探っていただきたい。	

人材育成・組織運営	
自己評価	• 日々の業務の中で役職にかかわらず個々の教員が自分の分担業務に責任をもたせるとともに、必ず主任をとおすことで、教職員それぞれの組織的な学校運営への意識を高めることができた。また、研修をとおして、人材育成を図ることができた。 • 朝の主任会や運営委員会をとおして、主幹教諭や主任教諭として学校運営について意識を向上させることができた。 • 教育相談委員会を定期的な実施により、学校全体で組織的な教育相談体制を構築することができた。また、各学年に特別支援教育コーディネーターをおくことで、生徒理解についてリーダーとなる教員の育成を図ることができた。
学校関係者評価	• 生徒及び保護者のアンケートにて肯定的評価が高かったことから、学校が落ち着いていることが分かりよかった。 • 組織的に教職員のみなさんのサポート、育成をされていることがうかがえた。 • 組織が整っていること、また、研修を通して人材育成をするのはすばらしい。 • 各学年に特別支援教育コーディネーターをおいたことは、特別支援教育の面で支援が充実したということで成果があったと思われる。 • 職位とそれに応じた役割を意識し、組織として活動することは大切だと共感する。一方でメンバー間の関係ができるだけフラットで、風通しのいい組織という在り方も、教育という場においては魅力的である。バランスの取れた学校経営が求められよう。 • 学校は生徒の教育の場であると同時に、社会人としての教員の育成の場でもあることから、ＯＪＴを通し、教員の育成が今後も継続されていくことを望む。

中期的な経営目標の達成状況	
①	全教育活動を通して自他の生命や人格を尊重し、違いを受け入れ、多様な人々と協働できる人権意識を身に付けた人間性豊かな生徒の育成を図るとともに、計画的な学級経営の中で、いじめや不登校を生まない集団作りを目指す。 → 豊かな心 アンケートにおいて、肯定的評価が９０％以上である。また、Ｑ-Ｕ 調査を学級経営に活用することができた。今後も、道徳の授業や人権教育を中心にしながら、不登校対策に取り組んでいく。
②	基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに、学習環境の整備やＩＣＴの有効的な活用により生徒が自ら学ぶ力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。 → 確かな学力 生徒アンケートにおいて、学習への意欲は９０％程度であるが、保護者アンケートにおいては、学力向上については７３％程度である。今後も、ＩＣＴ機器を活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っていく。
③	保健体育の授業や保健指導、学校行事等を通して、食に関する意識や体力の向上、心身の健康に対する意識啓発を図る。 → 健やかな体 学校行事では、多くの生徒が積極的に取り組み、９０％以上が充実していると感じている。また、食育についても、生徒会活動の一つとして毎日食育放送を行い、生徒の食への意識の向上を図ることができた。
④	自立・自律できる健全な生徒の育成を目指すとともに、話し合い活動を重視し、学級活動や教科との連携や生徒会活動との連携を図り、自分の考えを表現できる主体的な生徒を育成する。 → 特別活動の充実 授業において、話し合い活動や発表する活動を取り入れることで、生徒が自分の考えを表現できる場を設定した。それを基盤として、生徒会が主体となってＳＮＳ三中ルールの検討や生徒会主催交流会などの主体的な取組が見られた。今後も、全教育活動に広げていく。
⑤	教育相談委員会を中心として教育相談の充実を図り、一人一人の生徒に寄り添う指導や、個に応じた適切な支援の実施など、組織的な対応を推進する。 → 組織的な教育相談 教育相談委員会を定期的開催し、また、各学年に特別支援教育コーディネーターを配置したことから、各学年の実態を踏まえた適切な支援の充実を図ることができた。一方で、スクールサポーターに頼るところが大きい一面もあった。今後も別室登校のよりよい在り方など、組織的な取り組みを継続していく。
⑥	教育活動全体を通じて、自己実現に向けて主体的に進路を切り開く力を育てるとともに、向上心をもち、粘り強く努力し、困難を乗り越える強い意志を育てることを重視したキャリア教育を行う。 → キャリア教育の推進 次世代型キャリア教育教材を活用し、体系的なキャリア教育の推進を図ることができた。今後、各教科等でもキャリア教育の視点を取り入れた教育活動の意識の向上が必要である。
人・組	教職員間の連携を密にし、ＯＪＴを活用した人材育成と組織的な指導体制を確立する。 → 教職員同士の日常的なコミュニケーションを通して共通理解を図ることができた。今後は、さらにＯＪＴを意識し、組織的な指導体制の確立を図っていくことが必要である。
次年度の重点課題	
○自他の生命や人格を尊重し、多様性を認め合う人間関係形成力をはぐくむとともに、自らのキャリア教育を構築できる力の育成を図っていく。 ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して、ＩＣＴ機器を有効的に活用し、生徒の主体的な学びを促す学習活動を推進していく。 ○教育相談を充実させ、不登校生徒を含め、生徒一人一人に寄り添った指導を行っていく。	